

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月1日

事業所名 総合支援型デイふらっと

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		プレイルームと学習室を分けている	2023年10月に移転し、広くなった
	2 職員の配置数は適切である	○		補助の為に非常勤職員を配置している	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレに手すりを設置している	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			パート職員は参加できていないできるだけ全体に伝えるようにしている
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日頃からコミュニケーションを密にとり、ニーズの把握に努めている	保護者へのアンケートを行い、サービス提供時間の適正化を行い、土曜営業を開始した
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		評価表の集計結果をホームページに掲載	ホームページにて掲載しているが、保護者の認知度が低いため、会報でもお知らせする
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は行っていない
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修の他、定期的に関外の研修に参加	強度行動障害児に対応できるように研修に参加した	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者のニーズのみに偏らないように留意している	定期的に見発管が子どもと面談を行い、要望や困りごとの聞き取りをしている
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者・児童との面談と行動観察により行っている	大阪市「利用者調査票Ⅰ・Ⅱ」「フェイスシート」を利用。アプリの活用
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童の課題に合わせた活動の立案を行っている	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日課の他、レクリエーションや季節行事を実施	職員・保護者・子どもの意見を反映させている 長期休暇中の活動は「子ども会議」を開き、その結果を元に内容を設定している
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇中はおでかけやクッキングを実施	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		参加できない職員との情報共有、記録保持の為に、支援ノート、日報を活用	非常勤職員は勤務時間が異なるため、個別に情報を共有している
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		参加できない職員との情報共有、記録保持の為に、支援ノート、日報を活用	非常勤職員は勤務時間が異なるため、翌日または次の勤務日に情報を共有している
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		情報共有、記録保持の為に、日報の作成と支援ノートを活用	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		概ね3か月1回モニタリングを行っている		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管・児童指導員主任が参加し、状況を報告・共有している	担当者会議の他、電話やオンラインなどで担当者者とコミュニケーションをとっている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		担任や支援担当と連絡を取り合っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当無し
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			実績は無いが、今後を想定の上、障がい福祉サービス事業所等の情報収集に努め、体制を整えている
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		講演会や研修に参加している	参加できていない職員もいるため、オンラインなどで全職員が参加できるようにしていきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		近隣の公園でその場に居る子どもと交流している	土曜日や長期休暇中の課外活動時に障がいの有無に関わらず、たくさんの人と交流する機会を設けている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会 JOTO児童部会に参加	日頃は管理者や児発管のみの参加だが、2023年度は現場職員同士の交流会を開催し、意見交換などを行った
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		相談時間、手段など幅広く対応している	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		家庭内での困りごとの相談や、対応の仕方の提案などを行っている	講演会などの外部研修の案内もしている
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		状況に応じて書面にはルビをふり、音声読み上げ対応もしている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要時に即対応出来るように、対面だけでなく電話やメール、ラインなどを活用している	保護者が「どこまで相談していいのかわからない」と迷っているように感じることがあり、面談の機会を増やしていきたい
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		学期ごとに保護者交流会や季節のイベントを実施し、交流の機会を設けている	コロナ禍により長らく中止していたが、ようやく再開できた
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者には対面だけでなく電話やメール、ラインなどを活用して体制を整えている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		長期休暇前は行事予定等のお知らせを配布、定期的にホームページの更新をしている	3か月ごとをめぐりに会報を発行している
	35	個人情報に十分注意している	○		書類は鍵付き書棚で管理し、職員研修を行っている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		書面にはルビをふり、音声読み上げ対応もしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		夏休みに事業所でお祭りを開催、土日などに内覧会を開催している	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	児童と職員で主に地震、火災を想定した避難訓練を行っている 緊急時の連絡体制としてラインを登録	移転後の避難訓練回数が少なく、職員間の連携が不十分なところがあるため、新たな避難体制を構築中
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	避難手順、避難所までのルートを書面化している	非常災害時に保護者への引き渡し訓練を実施予定
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	職員会議や研修で定期的に虐待予防研修を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	身体拘束等適正化の指針を作成している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者よりアレルギー検査の結果を伝えてもらっている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ささいなことでも記録をとり、支援ノートと共に活用している	